

【令和七年度 久留米工業大学 一般選抜入学試験 個別学力試験 出題意図】

【後期一般選抜（3月12日実施）】

大問	教科・科目名	出題意図
第1問	国語	川井洋平氏による評論文「あえて言う 人文学は経営学 チューハイに文化人類学 / 光通信に哲学 顧客観察・大局観に新手」を題材としました。この文章は、文化人類学の「参与観察」をはじめとする人文社会系学問（人文知）が、現代の企業経営やマーケティング調査で活用されている具体的な動向について論じたものです。出題を通じて、受験者が、専門的な概念を含む文章の論理的な展開を追う読解力、「参与観察」の手法とその利点、および**「人文知研究所」設立が経営に与える影響などの要点を記述する力、文章の細部に関する正確な読解力（真偽判断）、および基礎的な漢字・語彙の知識を身につけているかを確認することを目的としました。
第2問		佐藤一磨氏による評論文「「共働きが加速すれば男も女も幸福度が上がる」世界20カ国調査で判明した男女格差と幸せの意外な関係……」を用いました。日本の男女間格差の現状と、格差の縮小が男女双方の幸福度にどのような影響を与えるかについて、調査データに基づき考察した文章を題材としました。出題を通じて、格差解消が女性だけでなく男性の人生の選択肢を広げるという論理的展開を正確に把握する力を問います。各問は、現状の課題の抽出、幸福度上昇のメカニズムに関する記述力、および文章細部の真偽判断、基礎的な漢字・語彙の習得状況を確認することを目的としています。